

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	平和教育推進事業			事業コード	0890
所属コード	203000	課等名	教育委員会学校教育課	係名	学習指導担当
課長名	大西 洋悦	担当者名	中軽米 央 子	内線番号	7334
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	心がつながる相互理解	コード	3
	施策	人権を尊重する地域社会の形成	コード	2
	基本事業	平和・人権啓発の推進	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 1 款 2 項 1 目 平和教育推進事業（016-01）			
特記事項 (H26)	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	年度
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

盛岡市内の中学生を被爆地である広島市へ派遣し、原爆資料館等の見学や平和記念式典への参加を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さについて理解を深める。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

戦後 50 年を経過し、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを風化させてはならないということから、市長の判断により、平成 10 年度から実施されたものである。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平和への関心が高まっており、事業の一層の充実が求められている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

盛岡市内の中学生

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 盛岡市立中学校の生徒数	人	7772	7731	7770	7648	7648
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

広島平和記念式典に合わせ、市内中学生 6 名を 2 泊 3 日の行程で広島に派遣する。派遣された生徒は、在籍校において集会等で報告した。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 派遣生徒数	人	6	6	6	6	6
B 報告会に参加した生徒数	人	2100	2893	2047	2000	2534
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

盛岡市内の中学生を被爆地である広島へ派遣し、原爆資料館等の見学や平和記念式典への参加を通して、戦争の悲惨さを認識するとともに、平和の尊さについて理解を深めるものである。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 戦争の悲惨さを認識し、平和の尊さについて理解を深めた生徒数	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	人	2100	2893	2047	2400	2534
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	640	640	640	640	640
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	640	640	640	640	640
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	70	70	70	70	70
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	280	280	280	280	280
計	トータルコスト A+B	千円	920	920	920	920	920
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：派遣校生徒たちの平和への関心が高まった。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：平和都市宣言をしている本市として、子どもたちの平和意識を高めることは重要であり、妥当である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：盛岡市内の中学生が、この事業を通して平和について考える機会を得ることができるので妥当である

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：多感な中学生の時期の戦争の悲惨さや平和の尊さについて触れることは非常に重要であり、生涯学習につながるものである。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

現状では、その余地はない。

(3) 公平性評価 (評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要)

公平・公正である。

理由：市内の中学生を代表して派遣するものであり、受益者負担は考えられない。

(4) 効率性評価

現状では、その余地はない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要 (新しい総合計画体系における位置付け)

総合計画 体系 (新)	施策 (方針)	子どもの教育の充実	コード	17
	小施策 (推進項目)	小中学校教育の充実	コード	17-1

(2) 改革改善の方向性

中学生6名の派遣では、3年間で全ての学校の生徒を派遣できないことから派遣人数を拡大する必要がある。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

経費増に対応するため、予算の獲得が必要となるため、関係課との協議を進める。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

中学生の広島派遣は、派遣された中学生だけでなく、所属校の生徒全体の平和意識の向上に
広くつながっていることから、より多くの中学校を対象として実施していくため派遣人員を 10
名に拡大して継続することが必要である。